

東雁来第2土地区画整理事業
予算額29億円（前年度比2.9%増）

この事業は多機能交流事業として平成18年度から進められてきました。今後、主に、ものづくり機能の集積を図るため軽工業の倉庫や工場などを想定します。

苗穂駅周辺地区まちづくり

総事業費約53億円

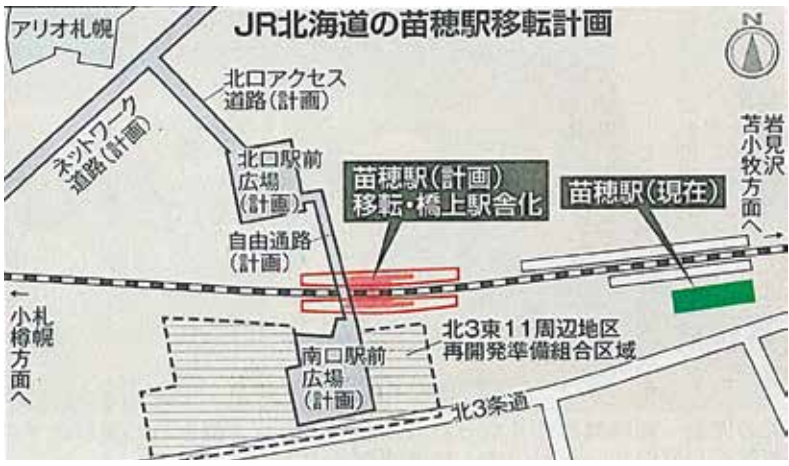
苗穂駅周辺地区整備事業

総事業費約84億円

北3東11周辺地区再開発事業

総事業費約140億円

総補助額約21億円



栄町駅交通広場の整備 平成26年供用開始

当初のバスターミナル構想から交通広場となって、事業が縮小され残念ですが、待合室の収容人数やトイレ、暖房、防犯の問題、通学路の安全性や信号機について、照明や除排雪の問題、バスの待機スペース、駐輪場（460台）の冬季イベント活用について、バス路線の再編成、施設に自然エネルギーの活用、時代や環境の変化、

平成26年度中に東区関連で完成予定の施設

施設名	住所・概要	完成年月
栄地区センター(改修)	北36条東8丁目	26年2月
私立保育所(仮称)光星友愛保育園	北12条東9丁目 乳幼児併設	26年10月
(仮称)北33条東8丁目公園	北33条東8丁目	26年9月
(仮称)北51条東7丁目公園	北51条東7丁目	26年12月
(仮称)東雁来10号公園 (新設)	東雁来10条4丁目	26年12月
東雁来みのり公園(新設)	東雁来13条2丁目	26年12月
東雁来団地 新設	東雁来12条4丁目	26年10月
光星団地(全面改善)	北13条東8丁目	26年6月
北栄出張所(改築)	北39条東1丁目	27年3月
市立開成中等教育学校(新築)	北22条東21丁目	26年7月
札苗緑小学校(増築)	東苗穂13条4丁目	27年3月



用地取得面積等の問題もあり、スケールの小さなものになってしまったが、将来に夢をつなげつつ、栄町駅周辺地域の活性化とバス利用者の利便性向上に取り組みます。そして現状では、自転車が歩道にも溢れる状態にあるため歩行者の安全確保にも、地域の皆さんの声にしっかりと耳を傾けながら期待に応えて参りたいと思います。

東苗穂に待望の介護施設が
8月オープン！

医療法人社団明日佳が東区東苗穂6条3丁目に建設を進める介護老人保健施設（老健）が、平成26年8月にオープンします。この施設は札幌市の第6期高齢者保健福祉計画に基づく補助対象事業に指定されており、市内44カ所目の老健です。定員は80人で、今後3月から4月にかけて入居者の募集を行う見通しです。



このほか、市では介護保険以外でさまざまな高齢者支援を行っています。認知症コールセンター（電話相談）、配食サービス、おむつサービス、生活支援型ショートステイ、高齢者あんしんコール事業、認知症サポーター養成事業、徘徊認知症高齢者SOSネットワーク事業、高齢者虐待防止ネットワーク運営事業、成年後見制度利用支援事業、福祉除雪など。介護保険施設の計画的な整備を進めるとともに、地域で支え合うぬくもりあふれる社会を築くため、これからも頑張ります。

3人1組で15人保育
サービスの質確保が今後の課題

待機児童対策で賃貸借り上げて開設 私たち自民党議員会・市民会議は子育て世帯の保育ニーズに合わせた多様な保育サービスの提供や利用調整を行いたいと提案してきましたが、4月から、保育士が3人1組で保育を提供する新たな待機児童対策を始めます。交通の便の良い賃貸物件を借り上げ、施設を2カ所設けることが予算付けされます。3歳未満の子どもを対象に、各施設15人まで受け入れます。保育園の整備にはコストと時間がか



かかるので、賃貸物件を借り上げ、人手をかけた保育を提供して、迅速な待機児童解消を目指します。 保育事業者を法人とすることで、給食を提供できるようになるほか、保育時間を11時間まで延長できるようになりま

す。今後も、保育サービスの充実のため整備推進していきます。

冬季オリンピック・
パラリンピック札幌
開催をめざす!!

札幌市は、アジアにおけるウィンタースポーツの拠点都市であり、この役割責任を果たすため、平成29年アジア冬季競技大会の札幌開催を決定しました。本大会は、東日本大震災後、日本国内で開催される最初の国際総合スポーツ大会であり、復興が進んでいる平成29年の日本をアジアはもとより世界に対して発信する絶好の機会となるとともに、このアジア冬季競技大会の成功こそが、冬季オリンピック・パラリンピック誘致にもつながるものと考えられます。



私は札幌カーリング協会顧問や札幌市ラジオ体操連盟会長等を務め、スポーツ振興に積極的に関わってきています。また、自民党市議会・市民会議は10年以上前から冬季オリンピック・パラリンピック札幌開催誘致を強く訴えてきました。

「札幌冬季五輪」招致は市民に将来の夢を与えるのはもちろんのこと、北海道新幹線札幌開業への工期短縮や老朽インフラの改築など、地域経済の成長に向けた起爆剤としても期待が高いことで早急な招致を表明したいものです。

丘珠空港に初の民間ジェット機

航空会社フジドリームエアラインズ（FDA、静岡市）は昨年11月16日、丘珠空港（札幌市東区）に小型ジェット旅客機ERJ170のチャーター便を運航しました。同空港では旅客機はこれまでプロペラ機しか飛んでおらず、乗客を乗せたジェット機が乗り入れたのは初めてです。名古屋・小牧空港との間を往復し、目立ったトラブルはありませんでした。記念すべきこの日、私も市議団の一人として搭乗しました。

滑走路が1500メートルと短いため、ジェット機の運航は困難とされてきましたが、機材の性能が向上し、短い滑走路でも離着陸が可能になりました。札幌の経済人などをつくる丘珠研究会が数年前から検討を進め、昨年7月にテスト飛行で安全性を確認しました。

札幌市は12月10日、当日の騒音が環境基準値以下だったとする調査結果を発表し、関係者は定期チャーター便就航に期待を寄せていますが、今後、市民の理解が得られることがジェット化の第一条件です。

